

浜通りにおける水稲特別栽培基準の疎植栽培適性

福島県農業総合センター 浜地域研究所

1 部門名

水稲 - 水稲 - 栽植様式・栽植密度、作型・栽培型、浜通り平坦

2 担当者

朽木靖之・江上宗信・濱名健雄

3 要旨

浜通りにおける水稲特別栽培米基準でのコシヒカリを使った疎植栽培(栽植密度 14.5~15.2、11.1 株/m²)は、通常の栽植密度に比べ、m²当たり茎数が少なく、収量がやや少ないものの、検査等級は良好であった。また、疎植導入時の経費試算では、育苗費削減によって導入効果があることが明らかとなった。

- (1) m²当たり茎数は栽植密度の低い区ほど少なく、葉色値では生育後期まで高く維持された(図 1)。また、葉いもち発生程度は、どの区も「無」であったが、予防防除に努める必要がある(データ省略)。
- (2) m²当たり穂数、精玄米重は栽植密度の低い区ほど少ない傾向であった。検査等級は全疎植区で1等であった(表 1)。
- (3) 疎植導入時の経費試算では、どの疎植区も減収による収入減に比べ育苗費用の削減効果が高く、併せて苗箱の減少による労働負担の軽減も考慮すると、有効な技術であることが確認された(表 2)。

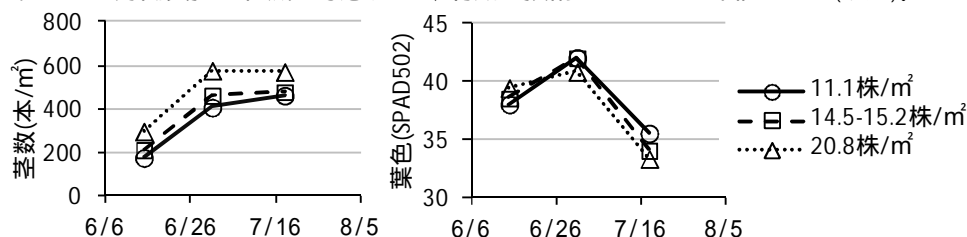


図1 茎数、葉色の推移(平成23、24年平均値)

表1 収量及び品質(平成24年)

栽植密度 (株/m ²)	穂数 (本/m ²)	1穂粒数 (粒)	m ² 粒数 (百粒/m ²)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	倒伏度 (0~400)	精玄米重 (kg/a)	等級 (1-10)
20.8	375	82	308	88.9	22.8	135	57.4	4.0
14.5	316	89	282	92.1	22.5	105	56.5	3.0
11.1	319	87	277	89.2	22.4	120	53.7	3.0

注) 移植: 2012年5月15日。基肥(kg/a): N(0.4(うち有機態0.2)), P₂O₅(1.0), K₂O(1.0)
検査等級はJA福島農産物検査協議会による1(1上)~9(3下)、10(規格外)の10段階評価。

表2 10a当たり経費試算(平成24年)

栽植密度 (株/m ²)	箱数 (箱)	苗購入・ 農薬費 ¹⁾ (円)	支出差 ²⁾ (円)	収量 ²⁾ (kg)	収入差 ³⁾ (円)	収支差 (円)
20.8	24	20,933	-	551	-	-
14.5	17	14,827	-6,106	545	-1,410	4,696
11.1	13	11,339	-9,594	530	-4,935	4,659

1) 中苗(700円/箱)、殺菌殺虫剤 2) 粒厚1.9mm以上の2カ年平均値

3) 販売価格14,100円/60kg

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度~24年度
- (2) 研究課題名 浜通りにおける米の高品質・安定生産に向けた技術の確立 特別栽培基準の栽培法の確立
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度~24年度センター試験成績概要
- (2) 平成22年度参考となる成果「水稲疎植栽培におけるいもち病育苗箱施用剤の効果」